

山梨大学附属図書館報

やまなし

2023.3.24

vol.20

no. 2

contents

2 | 宝いっぱいの世界：附属図書館

4 | 図書館利用者の声

5 | 学生にすすめる本

6 | 図書館トピックス

- 附属図書館クリスマスミニコンサートを開催〔本館〕
- 絵画展示「L5アート ミックス 2023 -井坂研究室の試み-」〔本館〕
- 国立国会図書館個人送信 印刷機能開始
- 講演会「『死ぬまでどう生きるか』の選択を支えるために
日本の医療者が今、身に着けておくべき知識と技術」を開催〔医学分館〕
- 「若手研究者のための英語論文投稿セミナー2023」を開催〔医学分館〕
- Wileyと転換契約を行いました
- 近代文学文庫 企画展示開催中

8 | 今後のイベント紹介

- 「子どもの読書オープンカレッジ」のご案内

The Yamanashi
Bulletin of the University of Yamanashi Library

宝いっぱいの世界：附属図書館

フルヤ タカオ
教育学域長 古家 貴雄

こんにちは。教育学域長の古家です。今回、この山梨大学附属図書館報『やまなし』の「巻頭言」に記事を学域長が順番で書くということで依頼が来たので、附属図書館を含む、「図書館」という空間について以前より感じていたことを述べてみたいと思います。

子どもの頃、特に小学校の時代は図書館にいる時間が人生で最も長かったのではないのでしょうか。毎年学校では読書週間なるものがあり、1人が何冊図書館から借りたか、最も借りた冊数が多かったのはどこのクラスかということで競争があり、優秀な個人やクラスが朝の朝礼で表彰されていたものでした。3、4年生の頃に図書館の本を競争で借りるということが流行っていた時代があり、私もよく本を借りていました。そして人気のある本は借りるのを待っている児童が多く、順番が回って来た時にはとても興奮して読んだものです。小学生の頃よく読んだ本のシリーズはルブラン作の『アルセーヌ・ルパン』でした。確かポプラ社刊で南洋一郎の翻訳だと思いました。ルパンが強盗をしながらも、奪い取った品物を貧しい人たちに分け与えるという話が多く、今考えると人情ものですが、不可能を可能にするルパンの行動に非常に魅かれたものです。言ってみれば、図書館で借りる本によって色々な世界の風俗や文化や冒険を体験したように思います。

本を読むこと、特に子ども時代の読書の意義はとても大きいと思っています。本を読むことによって、小説の場合は、他者、具体的には本の著者の作った空想の世界を体験することができ、ノンフィクション等の場合は、やはり作者のさまざまな体験、実際に見た事柄を体験できるのです。子どもにとって貴重な体験になりますし、子どもの想像力、空想力を豊かにすることができ、結果的に認知的な能力を高めることに繋がります。その意味で附属図書館が主催して行っている子ども図書室事業は将来の読者を増やす意味でもとても意義ある活動です。教育学部の学生も長年関わらせて頂き、将来教師となる可能性の大きい彼らには本を子どもに紹介したり、どんな本が良いか相談に乗ったりすることにより、子どもの世界や興味関心を理解する重要な機会となっています。

私自身のことに話を戻しますと、今考えると、特に本に興味を持つことになった原因として学校で学んだ教科、現代国語の教科書の影響が大きいと思っています。高校では明治書院の『現代国語』を使用しました。その中の文章とその作者に大きく魅了されました。例えば、「詩人の出会いと別れ」の高橋和巳、「陽気な現代」の島崎敏樹、「手の変幻」の清岡卓行、その他、加藤秀俊や山崎正和といった面々の文章がその教材の中にありました。この著者の世界観というものが自分を文系の世界に引っ張り込んだのでしょう。現在、英語教育を専門としていますが、鈴木孝夫の文章も他の教科書会社の教科書の中にありました。

さて、山梨大学に赴任して今年で30年目になりましたが、昔から附属図書館には本当にお世話になってきました。図書館には色々な機能があり、本当に重宝させてもらっています。ホームページの論文検索エンジンから、実際の文献探しから、図書を借りることまでです。たまに新聞を閲覧させてもらうこともあれば、最近では、図書館で廃棄になった図書を頂くこともあり、貴重な本が思いがけなく手に入ることもあります。これら多面的に利用できることの裏には図書館の職員の方々の手厚いサービスのお陰があります。特に、近年、私は英語教育史に関心があり、東京高等師範学校の英語教育の研究をしています。そのため古い文献を他の大学から借用する機会がありますが、その時にも職員の皆さんは非常に親身になって相談に乗ってくださり、実際に探している本を手元に届けてくださいますので、本当に感謝しています。

こんな一方的に附属図書館にお世話になっている私ですが、1つだけ貢献したことがあります。それは、数年前に図書館の中の表示（板）の英訳を頼まれたことです。以前ここにいた外国人教師のアレン先生とその仕事をさせてもらいました。黄色に白抜き表示を見ますと、当時を思い出します。

ということで、附属図書館は私にとってはなくてはならない場所であり、これからここでも培った色々な機能で図書館を利用するすべての人々に役立つことで発展していただきたいと思います。本当に、誰にとっても附属図書館は宝いっぱいの世界です。





自分の「好き」を見つけに

大学院医工農学総合教育部工学専攻2年

シゲタ コウジロウ
繁田 昂治朗

大学1年生の時、授業の課題のためにふと手に取ったのがイギリス文化の本です。それをきっかけにイギリスへの留学に興味を持ちました。その時から英語力や専門知識を身につけるために、図書館を様々な用途で利用してきました。よく活用していたのは、図書リクエストです。英語力向上のテキストや留学する都市の文化や歴史の本、英語で書かれた専門分野の参考書など多くの本を追加していただきました。図書館での留学の準備が入念にできたおかげで、工学部の学生として念願の交換留学をし、充実した留学生活を送ることができました。

大学院では、学生相談員として時間を過ごしました。主に専門分野のレポートへのアドバイス、パワーポイントの作り方や英語学習や留学のサポートを行ってきました。図書館には、静かな場所で落ち着いて読書や調べ物、勉強ができることに加えて、わからないことがあれば、学生相談員に尋ねることができる環境が整っています。

また、図書館は知識や理解を深めるだけでなく、自分の興味を広げてくれる場所でもあると感じています。私の場合、本を借りようと手に取る時、近くにある本にも興味が湧くことがよくあります。図書館に足を運ばなかったら、見つけることの出来なかった馴染みのない、自分の新たな興味を見つけることが好きです。みなさん自身も知らない新しい自分の「好き」を図書館で見つけてみませんか？

「生と死のコーナー」のすすめ

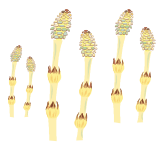
医学部医学科3年

マツカワ ヒナノ
松川 媛那乃

昔はよく本を読んでいた。特に小説が好きだった。しかし世間で若者の活字離れが騒がれ始めてしばらくして、例に漏れず私も離れた。大学に入ってからそれは変わらず。難しい教科書と時折にらめっこして頭を抱える程度になってしまった。

そんな時に出会ったのが附属図書館医学分館の「生と死のコーナー」だった。蔵書のほとんどが専門書のこの図書館で唯一、私が昔からお世話になっていた分類番号「913」のラベルが貼られている本が含まれているコーナーである。ベストセラーなので知っている人も多いだろう、夏川草介先生の「神様のカルテ」も全巻揃っている。その名の通り、そして医学分館らしく、並ぶ本のテーマは偏っている。余命宣告を受けた人の独白。看取りに携わる医療者の日記。ヤングケアラー等の社会問題の現場の声。エトセトラ。はっきり言って明るい内容とは言い難い。だが答えの出ない物事についてひたすら考えることが趣味のひとつである私にはちょうど良かった。

専門書や教科書を読んで知識をつけることはもちろん重要であるし、それが我々の本分でもある。しかしそれらの本からでは得ることのできない何か、誰かに教えてもらうだけでは知ることのできない何か、**「生と死のコーナー」**に置かれている本の中には確かに存在するのだ。時には勉強や知識から離れて、エッセイや小説を通して自分の中の倫理や哲学を育て、向き合ってみるのはどうだろうか。



学生にすすめる本

稲田豊史著

『映画を早送りで観る人たち：
ファスト映画・ネタバレーコンテンツ消費の現在形』

医学分館2階開架図書(第二) 778.04/EIG

医学部 看護学講座 基礎看護学領域

サイカワ メグミ

才川 恵 助教

この頃、動画配信サービスで作品の再生ボタンを押すとすぐ、速度調整のボタンに手を伸ばしませんか。私がそうです。思い起こすと高速再生を始めたのは、情報系の動画を流し見しながらザッピングするためでした。それがいつの頃からか、映画などの映像作品まで高速再生しています。習慣化しすぎて、最近では通常再生にじれったさを感じることもあります。便利だから始めたわけで、時短だしストーリーもわかるしいいじゃんと思いつつながら、何かを逃しているのではという感覚がずっとありました。そして、オンデマンド型の講義を高速再生している学生さんの話を聞き、増々私のもやもやは強くなりました。私も、学生さんも、なんで「早送りで観る」？このままいくとありのまま堪能できなくなったりしない？そんな時に見つけた本です。今の時代、タイムパフォーマンスは重要で、特にZ世代と呼ばれる人たちは時間を無駄に使いたくないと思います。そうすると生まれるのが、速いほどいい、失敗したくない、の2つで、なるほど「早送りで観る」はとても理にかなっています。学生さんがオンデマンド型の講義を「情報」に過ぎないと思えば、1.5倍速で視聴するのも頷けます。この本は「映画を早送りで観る」ような人々を批判する内容ではありませんでした。私は、効率の良さでは伝わらない人間理解の楽しさ、満足感をもっと伝えたいと思えました。学生さんがこの本をどう感じるか聞いてみたいです。

塩谷歩波著『銭湯図解』

本館2F新着書架 673.96

沢田佳久著『醤油鯛』

絶版のため県立図書館等でご利用ください。

生命環境学部 地域社会システム学科

キクチ ヨシト

菊地 淑人 准教授

私たちは身近な世界(空間・モノ)をどれだけ理解しているだろうか。そんなことに気づかせてくれる本が時折出版される。

『銭湯図解』もそんな1冊だ。作者は、大学院で建築学を学び、設計事務所に勤務した経歴ももつ「銭湯番頭兼イラストレーター」だ。銭湯愛にあふれる著者が、「アイソメトリック」という建築図法を用いて24軒の銭湯を図解する。描かれた図面はコンベックスでつぶさに実測した成果であり、建築学を学んだ著者の技術が注がれている。図面に起こされ、着彩されたイラストには余白に観察記録がびっしりと書き込まれている。

『醤油鯛』と題した本もある。著者は昆虫を専門とする研究者だが、同書が対象にするのは仕出し弁当などに付いてくる醤油を入れるプラスチック製の鯛(の容器)である。著者は自らコレクションしたこれらを「醤油鯛」(正式名称は「魚型たれびん」らしい)と名付け、分類学の方法論に基づき6科21属76種に整理し「図鑑」を完成させてしまったのである。醤油鯛の種類の豊富さに驚かされるとともに、収集したコンビニ名などを冠した分類名に思わず顔がほころぶ。

2冊に共通するのは、やっていることは学術の方法論そのもののなのに、扱う対象の身近さ、そして、対象をこよなく愛し、突き詰める著者の姿に多くの人が惹きつけられ、また、今まで考えもしなかった新たな視点に気づかされることである。

どんな対象でも妥協なく突き詰めることで何かが見えてくる。ここに挙げた2冊はそんなことを感じさせてくれるワクワク感に溢れた書籍であるとともに、研究に対する向き合い方、研究の愉しみ方にも多くの示唆を与えてくれる。

附属図書館クリスマスミニコンサートを開催



令和4年12月21日(水)、附属図書館本館において、教育学部芸術身体教育コースの藤原嘉文教授と大内邦靖教授が「クリスマス・ライブトロンボーンとピアノによるクリスマスソング集〈優しい響きに包まれる癒しのひととき〉」と題したミニコンサートを開催し、本学学生・教職員、附属幼稚園の園児ら100名が参加しました。

コンサートでは、親しみのあるクリスマスの楽曲が演奏され、参加者は、会場内に響き渡る美しい音色に聴き入っていました。また、参加者には鈴が配付され、観客席からも演奏に参加できる演出もあり、楽しいひとときとなりました。

絵画展示「L5アート ミックス 2023 -井坂研究室の試み-」



令和5年1月18日(水)～1月27日(金)の期間、附属図書館本館第二展示室において、「L5アート ミックス 2023 -井坂研究室の試み-」と題し、本学教員及び学生による作品の展示を実施しました。

今回も昨年同様、コロナウイルス感染防止のため学外者の入場を制限しており、学内者に限定しての開催となりましたが、井坂健一郎教授をはじめ、井坂研究室の学生の油彩画、水彩画、写真、CG、ミクストメディアといった多彩な空間が表現されました。

展示期間中には附属特別支援学校長を兼ねる井坂教授による特別支援学校生徒を対象とした展示の説明会が開かれ、生徒たちは角度を変えてみるなどの説明にしきりと感心しながら聞き入っていました。



国立国会図書館個人送信 印刷機能開始



印刷ボタンが表示されます。

個人向けデジタル化資料送信サービス(個人送信)は、昨年5月19日に閲覧のみでサービスを開始していましたが、令和5年1月18日から印刷機能も利用できるようになりました。

個人送信の利用には国立国会図書館の利用者登録が必要です。未登録の方は、附属図書館本館の特定端末で図書館送信サービスをご利用ください。



附属図書館医学分館「生と死のコーナー」関連イベント

講演会「『死ぬまでどう生きるか』の選択を支えるために日本の医療者が今、身に着けておくべき知識と技術」を開催

令和4年11月16日（水），附属図書館医学分館「生と死のコーナー」の関連イベントとして，講演会をオンラインで開催し，地域の医療関係者，医学生，教職員など164名が聴講しました。

今回は，医療法人社団翔友会理事長・診療部長の佐々木淳氏を講師にお招きし，「『死ぬまでどう生きるか』の選択を支えるために日本の医療者が今，身に着けておくべき知識と技術」と題し，ご講演をいただきました。



講演では，高齢者にとって入院そのものがリスクや機能低下の原因になることについての説明や，在宅医療がきちんと行われれば，患者さんの自宅での看取りを増やすことができ，地域の救急医療システムの負担軽減につながることで，また，患者さんが納得できる最期を迎えるために重要な点を挙げ，本人が最適な選択をできるようサポートしていくことが医療者の重要な役割であると述べられました。

参加者からは，「在宅医療における重要な視点や患者の意思決定を支える医療者としての姿勢について学ぶことができました」といった感想が寄せられるなど，有意義な講演会となりました。

「若手研究者のための英語論文投稿セミナー2023」を開催



令和5年2月14日（火），附属図書館医学分館主催「若手研究者のための英語論文投稿セミナー2023」をオンラインで開催し，学生・研究者・医療従事者など50名が参加しました。

セミナーの第1部では，副島研造内科学講座呼吸器内科教室教授が「臨床研究の立案から論文作成まで」と題して講演され，臨床研究についての基本説明から，研究がどのように解析され論文として公表されたのか，までを実例に沿って解説いただきました。

続く第2部では，ワイリー・パブリッシング・ジャパン(株)の長谷川智史氏から，「オープンアクセスジャーナルの今後の展開～世界と日本におけるOA化進展の状況～」と題して，OA化のこれまでの動きから，世界と比較した日本の現状，さらにはOA化を通じた研究成果の被引用数上昇などについて，わかりやすくご講演いただきました。

参加者からは「研究計画から論文掲載までの具体例に基づいた説明を聞くことができ，参考になりました」といった感想が寄せられ，有意義なセミナーとなりました。



Wileyと転換契約を行いました

附属図書館では、令和5年1月からWileyと転換契約を行いました。これにより、契約するWiley電子ジャーナルタイトルの閲覧に加え、論文投稿時に必要なオープンアクセス論文掲載料(APC)が無料となるOA出版枠が適用されます。

OA出版枠が適用される論文数には年間の上限があり先着順となりますが、上限を超えた場合には、通常のオープンアクセス論文掲載料(APC)に対して5%の割引が適用されます。

論文投稿の際には、揭示版掲載の「オープンアクセス出版手続きガイド」をご覧の上、投稿手続きをお願い致します。

【OA出版枠】

契約期間中の各年に、所属研究者が自己負担なしでOA出版できる論文数の上限

対象ジャーナル：ハイブリットOA，フルゴールドOA

対象著者：山梨大学所属の責任著者

近代文学文庫 企画展示

「大正期の名編—耽美派・白樺派・新思潮派の文学」開催中

本館2階第一展示室にて、近代文学文庫に収蔵されている明治・大正時代を中心とした作品の中から、大正期の名編の数々を展示しています。島崎藤村、田山花袋から芥川龍之介まで、誰もが知っている作家の、出版されたその時の書籍を間近に見ることができます。当時の時代背景や文化を思い起こしながら、大正浪漫を感じさせる装丁をぜひお楽しみください。



田山花袋
『東京の三十年』(博文館)



谷崎潤一郎
『お艶殺し』(千草館)

今後のイベント紹介



2023年度山梨県・山梨大学連携事業

申込必要

「子どもの読書オープンカレッジ」のご案内

子ども図書室では、山梨県・山梨大学連携事業の一環として、山梨県立図書館との共同企画により「子どもの読書オープンカレッジ」を実施する予定です。

今後の詳しい日程や内容は、随時、子ども図書室ホームページに掲載いたしますので、ご参照ください。

学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、通常山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できますが、現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学外者の方の利用をご遠慮いただいています。

最新の情報については、
<https://lib.yamanashi.ac.jp/>をご覧ください、
本館 Tel:055-220-8066、医学分館 Tel:055-273-9357
にお問い合わせください。



● 表紙：やまなし
場所：本館裏駐車場(図書館職員 撮影)

山梨大学附属図書館報
「やまなし」
第20巻第2号

2023年3月24日発行

編集：館報編集委員会

発行：山梨大学附属図書館

〒400-8510

甲府市武田四丁目4-37

TEL 055-220-8063



館報「やまなし」の由来：図書館報「やまなし」は山梨県、山梨大学の「山梨」と、樹木の「ヤマナシ」にかけています。図書館の西側に大きなヤマナシの木があり、毎年たくさん実をつけます。みんなが育てて喜ばれる図書館になるようにという願いがこめられています。